

磯崎新の謎展〈いき〉篇

Arata Isozaki: Third Space IKI

パスワードは第三空間 *Third space*

磯崎新は、その60年余りのキャリアの中で、何百もの建築物やプロポーザルとともに多数の著作を発表してきた、世界的に最重要な建築家のひとりである。しかし、キュレーションや芸術的コラボレーション、インスタレーションなどの実験的な作品は必ずしもよく知られているわけではない。都市計画や建築に加えて、こうした活動は、磯崎の「第三の空間」を占めているといえる。長年にわたり、アートやデザイン、音楽、演劇など他の領域との「間(はざま)」で活動してきた磯崎は、建築家として安易な類型化を許さない。ポストコロニアリズムの理論家ホミ・バーバが提唱する「第三の空間」という概念は、今日、中間的であったり、交差した曖昧な自己に関する意義をも含み、幅広く使われている。この概念を元に、文化現象の創造的実践、アクチュアルでヴァーチャルな時空間の浸透といった、魅力的で謎めいた芸術家の思想へ新たな光を当て、その業績を幅広い文脈から追求する。

2019年
9月27日[金]
→11月24日[日]

◎休館日 9月30日[月]、10月15日[火]、28日[月]、11月11日[月]、18日[月]
◎開館時間 午前10時～午後6時
(入館は午後5時30分まで)

大分市美術館
OITA ART MUSEUM

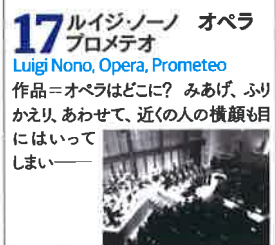
14 9つの住宅
Nine Houses
プライベート/コミュニティな空間の絡み合い。無数のバリエーションを生み出す曼荼羅の構成



15 東京一九八五
TOKYO 1985
伝統も消費物・消費財になる、なりえてしまうことを、「素人」たちが体現する、と?



16 秋吉台
国際芸術村ホール
Akiyoshidai International Art Village Hall
なぜ音楽を人は「前」をむいて聴くことを慣習化してしまったのか。まなざしのむく外を捨てて



17 ルイジ・ノーノ オペラ
プロメテオ
Luigi Nono, Opera, Prometeo
作品=オペラはどこに? みあげ、ふりかえり、あわせて、近くの人々の横顔も目にはいってしまい——

1 大分県立大分図書館
(アートプラザ)
Oita Prefectural Library (Art Plaza)
「プロセス・プランニング」の「切断」によって生じた空間へと浸透する「彩色された光の分布」



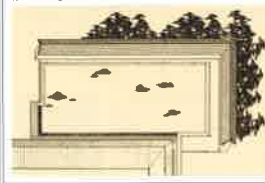
2 福岡相互銀行 大分支店
Fukuoka Mutual Bank, Oita Branch
サモン・ピンクの色彩に覆われた、サイケデリックな「梱包された環境=エンバイラメント」



3 マリリン・オン・ザ・ライン
Marilyn on the Line
身体の曲線を定規に設計された建築や椅子。優美な空間は誰のもの? 座り心地の責任はマリリン?



4 入り口(なかぐり)
Entrance (Nakakuguri)
旅がはじまる。それは体験であり、概念であり、未来であり、おそろく怖れ、ノスタルジーでもある



6 エンジェル・ケージ
Angel Cage
ヒューマン・スケールでマリリンの形の鳥籠に天使が捕らわれている。包含関係の逆転するデザイン



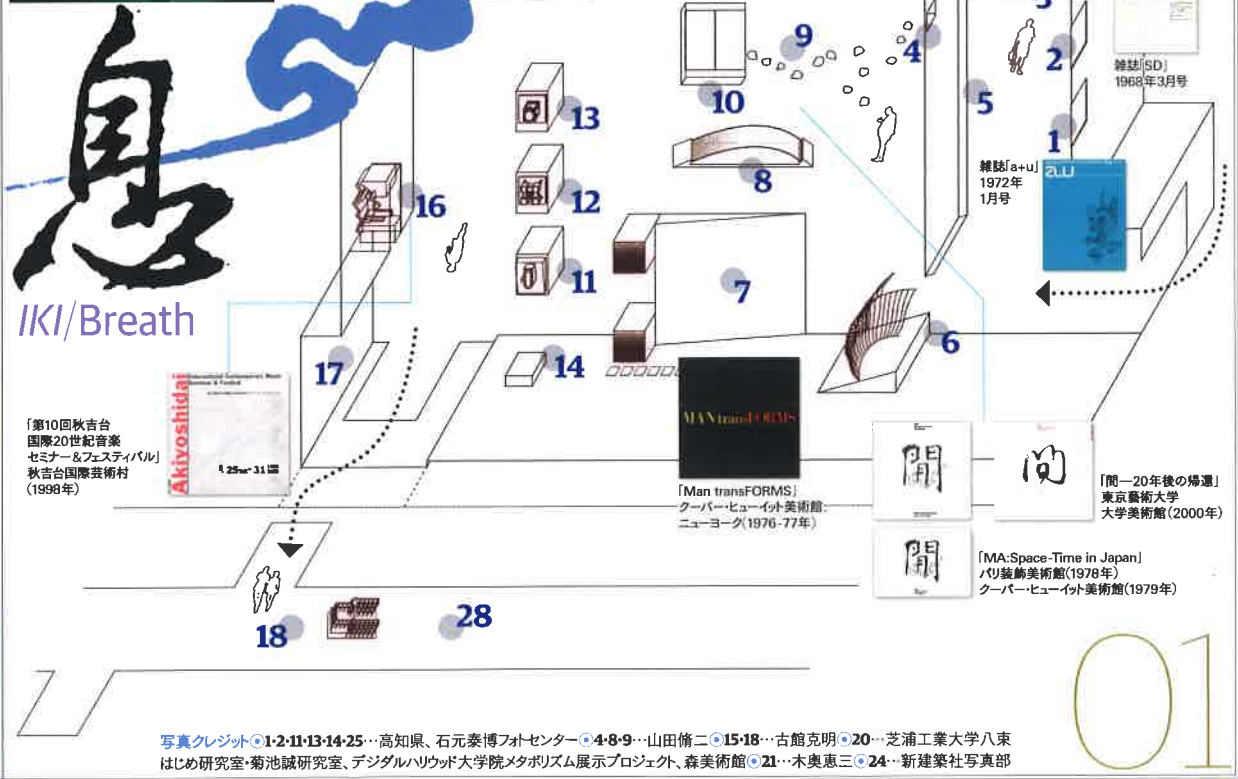
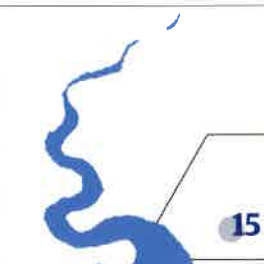
7 グラヴィティ・ルーム
Gravity Room
私たちが常に拘束されている力。勾配床、水平面、垂直線を組み合わせた空間を歩きながら気がつく



8 はし
Hashi
橋、箸、端、嘴、梯。二つのものを結びあわせるすべてのもの。盛り上げ、張り出させ、横切るもの



9 みちゆき
Michiyuki
深さを欠いた線。石の辿る跡。瞬間の連なり、駆け落ちする恋人たち。聖地巡礼。道ぞして道を行く



「第10回秋吉台
国際20世紀音楽
セミナー&フェスティバル」
秋吉台国際芸術村
(1998年)

Akiyoshidai
1.25m-11m

「Man transFORMS」
クーパー・ヒューイット美術館、
ニューヨーク(1976-77年)

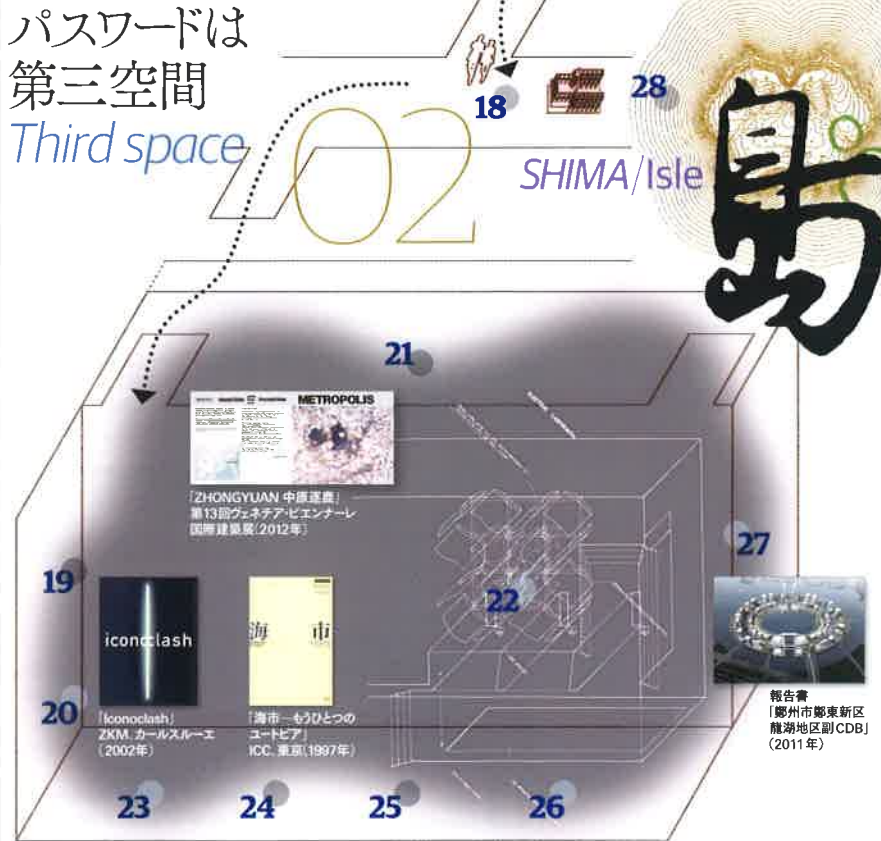
「間—20年後の帰還」
東京藝術大学
大学美術館(2000年)

「MA:Space-Time in Japan」
バウハウス美術館(1978年)
クーパー・ヒューイット美術館(1979年)

磯崎新の謎展〈しま〉篇

Arata Isozaki: Third Space SHIMA

パスワードは
第三空間
Third space



2019年
9月27日[金] → 11月24日[日]

●休館日 9月30日[月]、
10月15日[火]、28日[月]、
11月11日[月]、18日[月]
●開館時間 午前10時～午後6時
(入館は午後5時30分まで)

●観覧料
個人 20人以上の団体
一般 1,000円 800円
高校生・大学生 700円 500円
中学生以下＝市内・市外を問わず無料
※上記観覧料でコレクション展も併せてご覧いただけます。
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳提示者とその介護者は無料。
※本展は「大分市美術館年間パスポート」がご利用いただけます。

◆磯崎新展開催記念講演会

「大分という地霊について」

講師：磯崎新氏(建築家)
ユキノ恭弘氏(画家)
小野正嗣氏(小説家)
進行：菅章(大分市美術館館長)
日時：11月16日(土)午後7時～午後9時
場所：コンパルホール 1階 文化ホール
参加費：無料
募集人数：300人
申込方法：往復はがきにて下記の事項を記入し、大分市美術館「磯崎新展記念講演会」係まで郵送。
*1枚のはがきで、1人または2人まで記入できます(3人以上の申し込みは不可)。同一人物が複数応募した場合は無効。
*車椅子席は6席。ご利用希望の場合は、はがきに明記してください。
《往信》①参加人数(1通につき最大2人まで)
②参加者全員の氏名
③代表者住所・電話番号
《返信》代表者宛先(郵便番号・住所・氏名)
申込締切：9月30日(月)必着

◆磯崎建築を巡るバスツアー

(英語通訳付き)
日時：
(1) 10月6日(日)午後1時半～午後5時半
(2) 10月18日(金)午後1時半～午後5時半
場所：アートプラザ、学校法人 岩田学園、豊の国情報ライブラリー(大分県立図書館)等
参加費：無料

案内役：伊藤憲吾氏(一級建築士、公益社団法人 大分県建築士会 大分支部長)
申込方法等詳細は大分市美術館HPをご覧ください。

◆ワークショップ

磯崎建築の折り紙建築を作ろう!

日時：
(1) 10月13日(日)午後1時半～午後3時半
(2) 11月10日(日)午後1時半～午後3時半
場所：大分市美術館研修室
参加費：500円
講師：公益社団法人 大分県建築士会
定員：各回15人(多数の場合は抽選)
対象：小中学生(小学校3年生以下は保護者同伴)
申込方法：往復はがきにて下記の事項を記入して大分市美術館「磯崎新展ワークショップ」係まで郵送。
*応募は1家族につき1枚でお願いします。同一人物が複数応募した場合は無効。
《往信》①参加希望日
* (1)(2)どちらか一つを選択してください。
②参加者全員の氏名・年齢
③代表者住所・電話番号
《返信》代表者宛先(郵便番号・住所・氏名)
申込締切：9月30日(月)必着

◆展示解説(要観覧料)

日時：毎週水曜日 午後2時～(30分程度)
場所：企画展示室
解説：当館職員

18 パラディウム

The Palladium
みるより目にはいる。視覚・聴覚ともに、身体が通過してゆく時間・空間の変数が踊るための場?



19 ふたたび廃墟になったヒロシマ

Re-ruined Hiroshima
建設と破壊。計画と消滅が同義になる瞬間。はじめて具体的な状況の核心にふれる空間があらわれる



20 空中都市—渋谷計画

City in the Air—
Shibuya Project
大分に帰省する途中にしばしば立ち寄った東大寺南大門。この断面を10倍にしたら未来都市があらわれた



21 孵化過程

Incubation Process
てんでばらばらで始まり終わりもなく、無限に生成するかにみえる混沌のエネルギーが触解し凝固して



22 電氣的迷宮

Electric Labyrinth
高密度な都市空間に閉塞する日本の密念たち。地獄絵、幕末浮世絵、原爆の死体、餓鬼、お化けたち



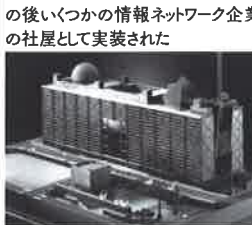
23 コンピューター・エイティッド・シティ

Computer Aided City
巨大情報装置群はクラウド化する都市のインフラとして寒冷地や山岳地に実装され情報都市を支える



24 大阪万博お祭り広場

The Festival Plaza, EXPO'70 Osaka
巨大屋根・人工地盤・エスカレーターはその後も各地の駅に実装されて日本型動員装置へと発展した



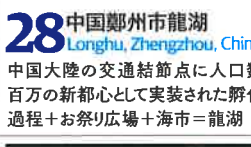
26 海市計画

The Mirage City Project
工学的構築によって漸進的に発展するはずのプロトタイプは創造的破壊の反復により更地となった



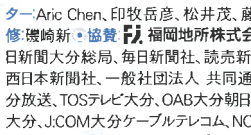
27 都市ソラリス

SOLARIS
想像力が有機的に形成する物語をモデルにした都市計画。知性のぶつかり合う会議のすべは漫画である



28 中国鄭州市龍湖

Longhu, Zhengzhou, China
中国大陸の交通結節点に人口数百万の新都市として実装された孵化過程+お祭り広場+海市=龍湖



●主催 大分市美術館、大分合同新聞社 ●キュレーター Aric Chen、印牧岳彦、松井茂、藤村龍至 ●監修 櫻崎新 ●協賛 福岡地所株式会社 ●後援 朝日新聞大分総局、毎日新聞社、読売新聞西部本社、西日本新聞社、一般社団法人 共同通信社、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、エフエム大分、J.COM大分ケーブルテレビ、NOAS FM、ゆふいんラジオ局 ●特別協力 アートプラザ、鬼塚電気工事株式会社、公益社団法人 大分県建築士会、公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学、国立大学法人 大分大学、日本文理大学、法政大学デザイン工学部渡辺真理研究室+北山恒研究室、松田周作建築設計事務所、有限会社 壬子板金、Oelectronica、榎本二郎(株式会社Zero-Ten)、小沼新一、徳山知永、羽藤英二 ●協力 一般社団法人 大分県建築士事務所協会、一般社団法人 日本建築学会九州支部 大分支部、公益社団法人 日本建築家協会 九州支部 大分地域会 ●企画協力 磯崎新アトリエ、Misa Shin Gallery

磯崎新 (いそざき あらた)

1931年大分生まれ。1954年東京大学工学部建築学科卒業。1963年磯崎新アトリエを設立。以後、国際的な建築家として、群馬県立近代美術館、ロサンゼルス現代美術館、バルセロナオリンピック競技場などを設計。近年では、カタール国立コンベンションセンター、ミラリアンツタワー、上海シンフォニーホール、湖南省博物館、中央アジア大学、中国河南省鄭州市の都市計画などを手がける。世界各地の建築展、美術展のキュレーションや、コンペティションの審査委員、シンポジウムの議長を務める。代表的

な企画・キュレーションに「間—日本の時空間」展(1978-81)、ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館コミッショナー(第6回~8回)、同展日本館展示「亀裂」で金獅子賞受賞(1996)、建築思想の国際会議「ANY会議」を10年に渡り企画(1991-2000)。著書に「建築における『日本のもの』」(新潮社、MIT Press)、過去50年間に渡り書いてきた文章を編集した「磯崎新建築論集」(全8巻、岩波書店)など多数。建築のみならず、思想、美術、デザイン、文化論、批評など多岐にわたる領域で活躍。2019年「ブリックアワード」受賞。

大分市美術館

OITA ART MUSEUM
〒870-0835 大分市大字上野865番地
[Tel] 097-554-5800
[Fax] 097-554-5811
http://www.city.oita.jp/ →
便利ナビ→大分市美術館へ

●交通アクセス
●バス：JR大分駅上野の森口(南口)バスのりばから中心市街地循環バス「大分キャンパス」
【大分市美術館方面】行約7分
●タクシー：JR大分駅上野の森口(南口)から約5分
●車：東九州自動車道/大分ICから約10分

